

令和5年度 学校評価報告書

1 実施時期

- (1) 教職員自己評価 令和5年12月11日(月)～12月15日(金)
- (2) 児童アンケート 令和5年12月12日(火)～12月21日(木)
- (3) 保護者アンケート 令和5年12月12日(火)～12月17日(日)
- (4) 学校関係者評価 令和6年 2月 5日(月)

2 アンケート結果 (別紙)

3 成果

- (1) 学校は、教職員がチームワーク行動を発揮しながら、円滑な学校運営に向かおうとしている。
- (2) 学校は、大規模校としての運営の難しさがある中で教職員が地域の活動などにも協力的であり、校内においても工夫した運営がされている。
- (3) 教職員がチームワーク行動を発揮しながら、円滑な学校運営に向かおうとしている。
- (4) 学校は、食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談の機会を設定している。
- (5) いじめ認知件数が増えている。組織的取組の成果といえる。学校生活アンケートを持ち帰って実施することで、家庭との情報共有ができる。
- (6) 学校は、算数科における学習指導の研究に取り組み、研究主題を「わかった、できたを実感し、自信を育てる算数科の授業づくり～個別最適な学びと協働的な学びの実現を通して～」として、指導力の向上と授業の充実に努めている。

4 今後の課題

- (1) 働き方改革の推進については、社会全体で進めるべきであるが、従来の考え方を保護者も変化させなければ解決できない課題と考える。
- (2) 学校は、教員が研修の成果を生かして、一時間一時間の授業を大切に行い、児童がわかる、できる、もっと学びたいと思える授業と、自己有用感を高める学級経営・生徒指導を展開する必要がある。
- (3) 「家庭であまり読書をしていない」という意見が多い。啓発活動として、休日の読書推奨、読書マスターカードの活用、読書タイムの設定等を推進する。
- (4) ・コロナ禍で運動機会が減少していた中で、「自然とのふれあい」や児童の体力向上に向けた遊びの中での気づきを進めることが大切である。